



下久屋町の自宅前で家族写真。父から子へトーチキスのポーズを決める。
【写真左から】母・亜紀子さん、父・隆直さん、悠紀君、兄・将英さん



特集 東京 2020 オリンピック聖火リレー

二つの古里へ希望をつなぐ

東京 2020 オリンピック聖火リレーが3月30日から2日間、県内各地で行われ、31日は沼田市内を走り、希望の炎をつなぎました。白いユニフォームに身を包み、聖火を片手に沿道の応援に笑顔を向ける木幡悠紀君（沼田東中・3年）は、沼田のスタート地点となる沼田公園を駆け抜けました。「沼田と福島の二つの古里を希望でつなげられ、感謝の気持ちでいっぱい」とすがすがしい表情を浮かべていました。

震災を経験 移住を決断

悠紀君は福島県南相馬市の出身。東日本大震災の避難で一家は10年前に沼田へ移住しました。震災当時、悠紀君は幼稚園に通っており、父の隆直さんと母の亜紀子さんが園に迎えに行つたときに地震が発生しました。「ここまで大きな被害になると思わなかった」と隆直さんは話し、津波や東京電力福島第一原発事故の放射能の恐怖などで、命の危険を感じてきたといいます。家を流された同僚や親戚も次々と避難を始め、木幡さん一家も福島を離れることを決断。選んだのは亜紀子さんの故郷の沼田でした。

大志君との出会いが自信に

悠紀君は慣れない土地で暮らす不安や引つ込み思案な性格から、新しい生活に馴染めずいました。悶々とした気持ちがある一方で、楽しい時間はインターネットを使うことでした。小学校卒業前、クラスメートの塩野大志君とインターネットの何気ない話が弾んだことがきっかけで、悠紀君の心が少しずつ変化。中学生になってからは何でも話せる関係になりました。同じ卓球部で毎日を共に過ごしています。市の英語のスピーチコンテストではペアを組み、家族に立派な姿を披露。ベストパフォーマンス賞を